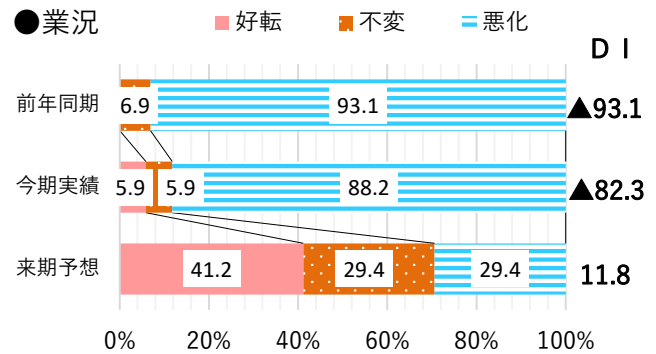


観光業

業況、売上、採算

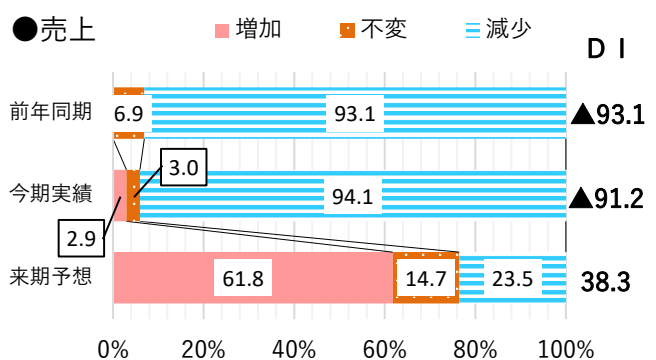
今期（2021.1～3）の業況判断DIは▲82.3で、前年同期(2020.1～3)と比べ10.8ポイント上昇しました。

来期（2021.4～6）は、業況が好転すると予想しています。



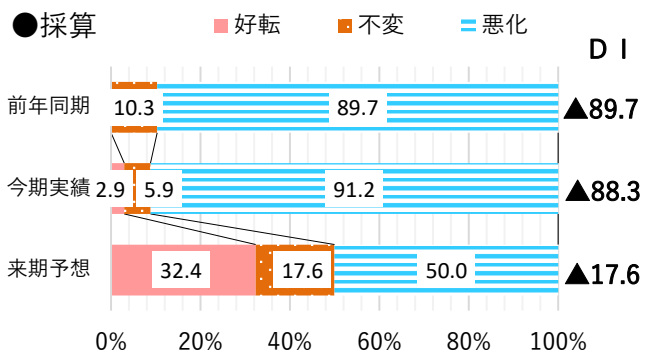
今期の売上DIは▲91.2で、前年同期と比べ1.9ポイント上昇しました。

来期は、売上が大幅な増加に転じると予想しています。

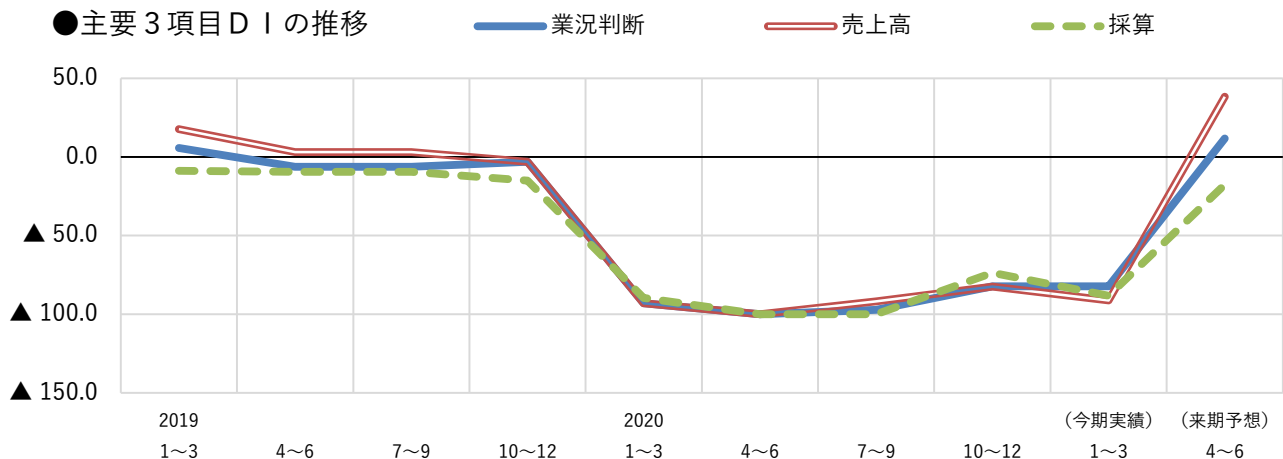


今期の採算DIは▲88.3で、前年同期と比べ1.4ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



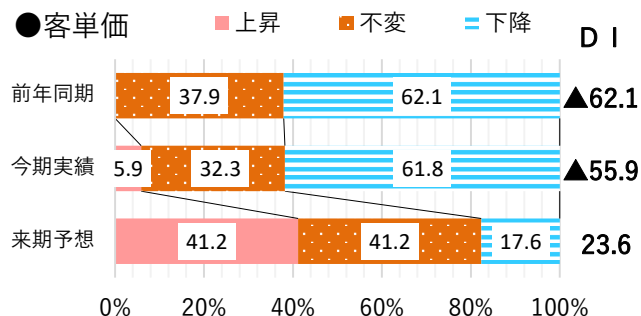
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

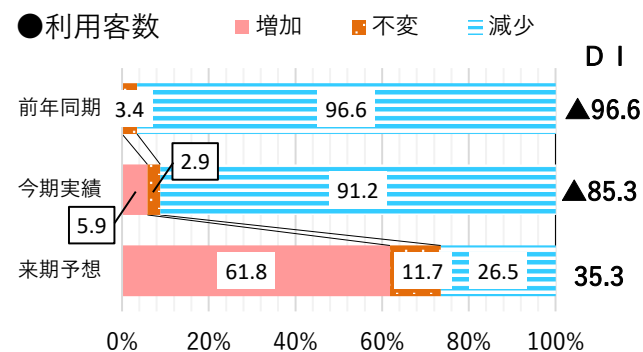
今期の客単価DIは▲55.9で、前年同期と比べ6.2ポイント上昇しました。

来期は、客単価が大幅な上昇に転じると予想しています。



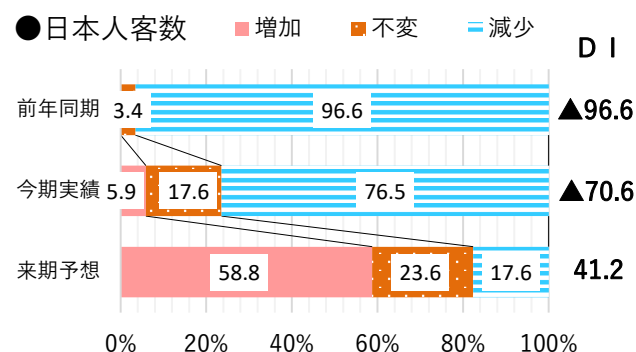
今期の利用客数DIは▲85.3で、前年同期と比べ11.3ポイント上昇しました。

来期は、利用客数が大幅な増加に転じると予想しています。



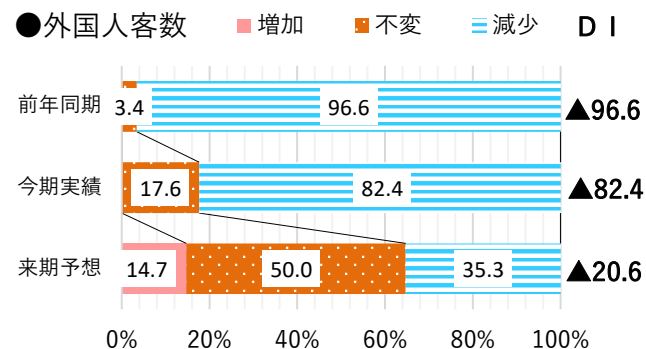
今期の日本人客数DIは▲70.6で、前年同期と比べ26.0ポイント上昇しました。

来期は、日本人客数が大幅な増加に転じると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲82.4で、前年同期と比べ14.2ポイント上昇しました。

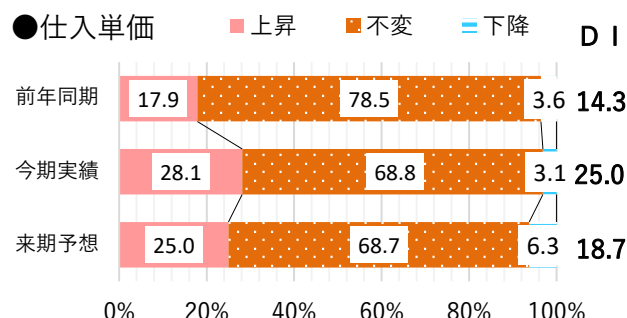
来期は、外国人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは25.0で、前年同期と比べ10.7ポイント上昇しました。

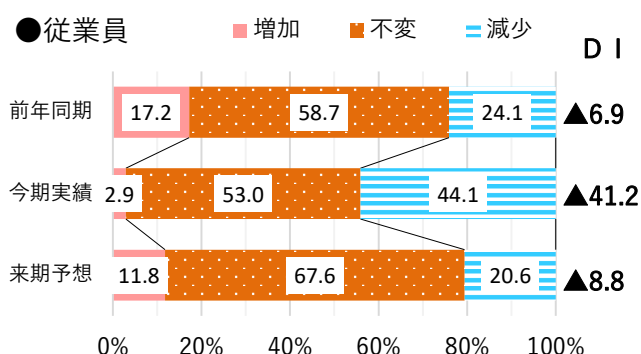
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



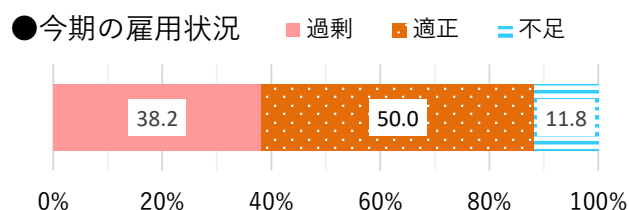
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲41.2で、前年同期と比べ34.3ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、従業員数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は38.2%、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は11.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の29.4%を占めています。

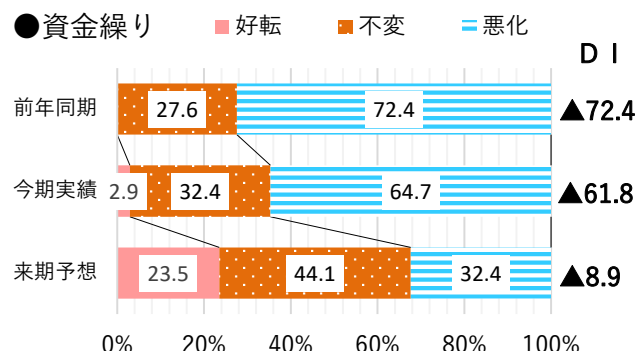
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、過剰である」、「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	6
	適正	10
	不足	2
減少した	過剰	7
	適正	7
	不足	1

資金繰り、設備投資

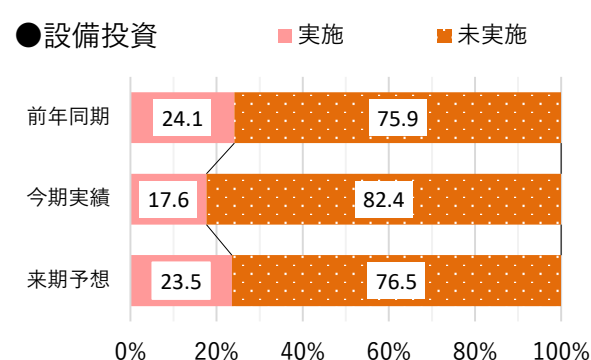
今期の資金繰りDIは▲61.8で、前年同期と比べ10.6ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は17.6%で、前年同期と比べて6.5%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、「付帯施設」、「その他」（同位）、2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は23.5%で、増加を予想しています。

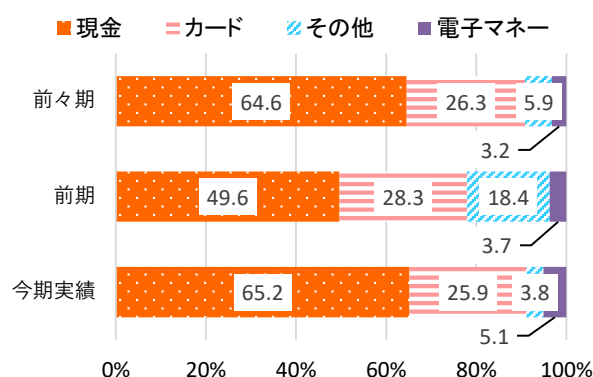


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で65.2%、2位がカードで25.9%、3位がその他で3.8%、4位が電子マネーで5.1%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、GoToイートの食事券、クーポン券、掛売り、銀行振込です。

●今期利用客の決済方法(%)

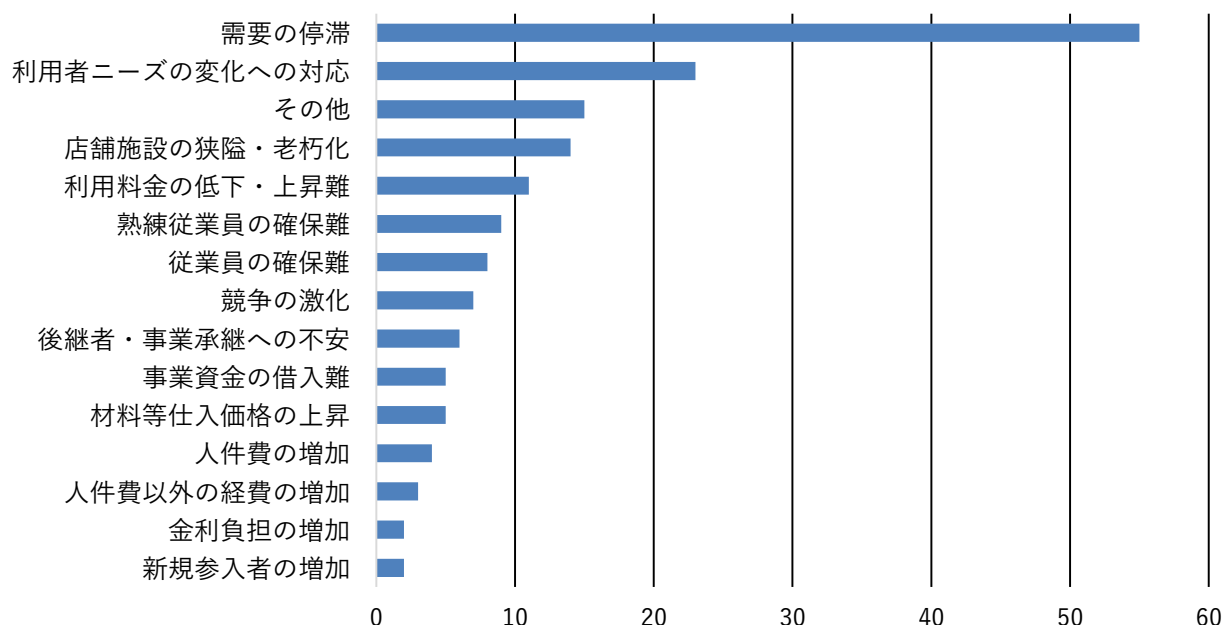


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は30.3%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「その他」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 新型コロナウイルスの影響で客数が減少し、業況が悪化した。(ホテル)
- コロナ禍のため業績が悪化した。(ホテル)
- 売上が大幅に減少した。(ホテル)
- 首都圏の緊急事態宣言や、札幌と小樽の外出自粛で、業況は大きく悪化した。(コテージ・ペンション)
- 昨年2月までコロナ禍の影響は無かったため、前年同期比の売上と利益は大幅に減少した。小樽市内と札幌圏に行動自粛が浸透しており、開店休業状態が続いた。ネット通販を強化したことで、売上が少しずつ伸長している。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響で、インバウンドはもとより国内観光客も減少している。(土産品)
- 観光客は少なく、インバウンドの来店は全くないため、とても厳しい。(土産品)
- 緊急事態宣言によって人出が減少し、業況が悪化した。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響で、札幌からの来客が減少した。(土産品)
- 観光客は回復せず、売上は低迷している。(土産品)
- インバウンドの来店は全くなかった。(土産品)
- 新型コロナウイルスによって観光客が減少し、業況が悪化した。(土産品)
- 卸売先からの受注量が減少した。(土産品)
- 昨年1～2月は新型コロナウイルスの影響が小さかったため、前年同期比の業況は大きく悪化した。インバウンドの来店が全くないため、とても厳しい状況にある。(飲食店)
- 観光地という場所柄、状況が緊急事態宣言によって大きく左右されるため、営業の判断、人材の投入、食材の仕入が安定せず苦労した。(飲食店)
- 2月の業況が特に悪かった。昨年借り入れた資金は使い切り、保険は解約した。(飲食店)
- 休業要請と札幌間の往来自粛により売上がなく、苦しい状況である。(飲食店)
- 市からの外出自粛要請等により、年末～1月上旬と1月下旬～2月中旬までの2回臨時休業しており、前年同期比の売上は約80%減少した。(水運業)

- 昨年2月はインバウンドの利用で100万円以上の利益があったが、今期は全く無かったため、対前年同期比の利益は100万円以上減少した。日本人の利用も減少しているが、地元客の利用傾向は大きく変わっていない。（レンタカー）
- 一般客の利用が増加傾向にある。（レンタカー）
- 冬期のため動きが少なかった。（娯楽業）
- 新型コロナウイルスの影響で、駐車場の利用が昨年同期比で30～60%減少した。（船舶貸渡業）

[来期の業況について]

- ワクチンの供給が進み、国内客が増加すると思われる。（ホテル）
- 業況の改善は期待できない。（ホテル）
- 見通しが立たない。（ホテル）
- 新型コロナウイルスの状況に左右される。雇用調整助成金の助成率等が変わるため、不安を感じている。（コテージ・ペンション）
- 引き続き新型コロナウイルスによる不況下での事業を強いられる。節約を徹底して利益を確保したい。市内と札幌圏、道内からの来客増加に期待している。ワクチンの供給が進むまで不景気は続くだろう。（土産品）
- 新型コロナウイルスのワクチン供給と気温の上昇により、売上は回復するが、昨年同期の実績には届かないと思われる。（土産品）
- 新型コロナウイルスが終息しなければ、当分厳しい状況が続くと思われる。（土産品）
- 新型コロナウイルスの終息の見通しが見えないため、業況は厳しい。（土産品）
- ゴールデンウィークでの売上増加に期待する。（土産品）
- 現状の劇的な回復は見込めない。（土産品）
- 新型コロナウイルスのワクチンによって、多少人の流れが回復すると思われるが、再度感染者数が増加することがあれば、厳しい状況が続くと思われる。（飲食店）
- 改善を見込むが、借入金の返済が負担となるため、事業継続に不安を感じている。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの終息が見通せなければ、判断できない。（飲食店）
- 国内旅行者の増加に期待する。（飲食店）
- 3月中旬から客数が徐々に増えているため、売上の増加を期待する。（水運業）
- 昨年4月以降は対前年比70%程度の利用で推移しているので、同程度かさらに落ち込むと思われる。（レンタカー）
- 先行きは不透明である。（レンタカー）
- 春になると利用が増えると思うが、受注が低調のため、厳しい予測となる。（娯楽業）
- 新型コロナウイルスが終息すれば、例年通りの収益が見込めるが、今のところ難しい。（船舶貸渡業）